西之表市現和の種子島大踊

【所　在　地】西之表市現和（種子島大踊保存会）
【種　　別】県指定無形民俗文化財
【指定年月日】昭和 43 年３月 29 日

「掛け打ち太鼓」ともいわれ，いくつもの踊りから構成されている。大人数で踊るので「大踊」ともいい，鎌倉から伝わったとか，室町時代，関西と関係の深かった種子島に上方から直接伝わったとかいわれている。

この系統の踊りは種子島全域に伝承されており，普通３，４種類の踊りで構成されている。武部集落の場合は８種類から成り，踊り内容もすぐれている。

大踊は，１つの踊りが「出端」，「本踊」，「崩し」，「引端」の４つからなる。踊り方は「出端」ははれやかに，「本踊」は荘重に，「崩し」は軽快に，「引端」は優雅に踊る。秋の願成就祭りに神前で奉納されるので男子だけで踊る。歌詞は「堺北之町」や「佐渡と越後」，「武蔵野」，「月日かけ」など，近世初期の歌が中心で，哀調をおびたすぐれた歌である。

昭和 49（1974）年 12 月 14 日，「現和の種子島大踊」として，記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財として国により選択された。